

郷土の文化に親しませるための教材の工夫

—— 年中行事やことわざなどの教材化 ——

浦添市立宮城幼稚園教諭 比 嘉 涼 子

---

20-2

## 目 次

I	テーマ設定の理由	1
II	研究の目標	1
III	研究の仮説	1
IV	研究の内容	2
1	文化とは	2
2	文化的な育ちと環境	2
3	幼児の3つの文化	2
4	幼稚園での郷土の文化継承を目指して	3
5	教材化を進める前に	3
6	家庭との連携	4
7	郷土の文化を通して育つ心情・意欲・態度	4・5
8	幼児の実態把握〈アンケート調査結果〉	6・7
V	教材の工夫	8
1	民話「十二支の由来」に親しむための工夫	8
2	着物に親しませるための工夫	9
3	行事「ムーチャー」に興味をもたせるための工夫	10
4	検証保育	11
(1)	主題	11
(2)	目標	11
(3)	設定理由	11
(4)	教育効果	11
(5)	教材化の工夫と幼児の変化	11
(6)	公開保育指導案	12
(7)	紙芝居	13・14・15
(8)	公開保育後の結果と考察〈クスケーの由来〉	16・17
5	年間計画表	18・19
VI	研究の成果と課題	20
1	研究の成果	20
2	今後の課題	20
	おわりに	20
	参考文献	20

# 郷土の文化に親しませるための教材の工夫

— 年中行事やことわざなどの教材化 —

浦添市立宮城幼稚園教諭 比嘉 涼子

## 【要約】

この研究は、社会の変化に対応して、幼稚園での郷土の文化継承の在り方について考えようとしたものである。幼児は家庭や地域で具体的生活体験を通して文化を学び、社会の一員として成長して行く。しかし、今日の社会環境は幼児が身近に郷土の文化に触れ合う、場や機会が減少してきたと言える。そこで、幼稚園での取り組みとして郷土の文化を教材化し、生活の流れに沿って計画的に取り入れていくことを考えながら研究を進めてきた。その結果、経験した活動内容を生活の場に生かし、郷土の文化に親しみを持って活動する幼児の姿が確認できた。

キーワード 郷土の文化 年中行事 ことわざと言葉 教材化 年間計画

## I テーマ設定の理由

幼児期の心身の発達は著しく、環境からの影響を大きく受ける時期である。特に、社会行動の仕方や生活文化の育ちは、具体的、生活体験を通して学び将来の人間形成に重要な意味をもつことになる。

幼稚園教育要領の環境の中でも「地域の人々との触れ合いの体験や地域の文化・行事に触れる体験などの社会体験を積極的に取り入れること」の必要性が述べられている。

近年の幼児の生活環境はテレビやゲームなど遊具の機械化、地域文化や人々との交流の希薄化など、直接体験の場なども減少してきた。また、都市化による核家族は増え、年長者と若年層の距離はこれかもますます開いていくと考えられる。そのことは今日まで自然に伝え、受け継がれてきた生活文化の伝承や伝統文化に身近に触れる機会もさらに少なくなると考えられる。

そのために幼稚園での文化継承の在り方と、家庭や地域と連携を取って、幼児にふさわしい環境作りに協力して取り組む事の必要性を痛感した。これまでの反省から、地域の文化や人々との交流を目的とした直接体験が少なかったこと、また郷土の文化の素晴らしさを実感しながらも、先人の豊かな知恵や心を幼児に伝えきれなかった研究不足に気が付いた。

そこで、郷土の文化の温かさや、優しさを幼児に伝えていくための環境作りとして、郷土の年中行事やことわざなどの素材を教材化し、生活の流れに沿って年間計画に位置付けて指導しようと考え、本テーマを設定した。

## II 研究の目標

郷土の文化を教材化し、指導することにより郷土の文化に親しみのもてる幼児を育成する。

## III 研究の仮説

沖縄の行事やことわざなど、郷土の文化を教材化し日々の保育に位置付けて指導すれば郷土の文化に親しみがもてる幼児に育つだろう。

#### IV 研究内容

##### 1 文化とは

社会集団の中には風土に根差した固有の文化がある。その文化は人々が暮らしを支え、生活を豊かにしようとの願いから、生活の中から生み出された遊びや年中行事、習慣、民話や伝承、伝統工芸を言う

また、それらの有形、無形の伝統文化は時間の経過の中で淘汰されながら、人々の間に「よさ」が認められ継承されてきたものである。

##### 2 文化的な育ちと環境

文化の中には考え方や感じ方にそれぞれのお国柄がうかがえる。「月にうさぎ住んでいる」は日本の文化であり、世界共通ではない。なぜ日本はうさぎかを問うとき、それは文化的環境である母親の影響の大きさに原点がある。幼児はそこから自然な形で社会の文化にはいり社会の文化的な感じ方を幼児なりに意味づけ、獲得して行く。四季の変化に富んだ美しい風土によって育まれてきた価値観や態度など幼児期は社会の文化や行動の仕方、生活様式を身につける時期である。また、その文化に触れることは幼児の知性を耕すと同時に、豊かな感性を育てていくのである。

##### 3 幼児の3つの文化

子どもたちも、年齢や成長に応じて独特の文化を持ち、子どもの生活を楽しく豊かなものに行っている幼児を取り巻く文化は大きく三つに分けることがで

きる。子供文化の中心をなす遊び文化、生活文化、幼稚園文化と言える。この三つの文化がバランスよく育つことが大切である。幼児の文化と育ちを下の図のようにまとめることができる。

##### (1) 子ども文化はどうなっているか

###### ①遊び文化

幼児の遊びは、テレビなどのマスメディアや商業主義に大きく影響を受けている。

例えばバラエティ番組には、まじめな人間の営みを茶化し、お笑いに行っていることも多く見られる。

判断力、選択力が十分育ってない幼児がそのままをして遊んだり、時にはその遊びがはじめを助長する傾向になりかねない。

またキャラクター集めに走るなど、子供が遊びの中で育んできた空想や感動、みずみずしい感性がなくなり、夢の無い現実的な大人化が進んできたといえる。

###### ②生活文化

家庭では核家族化、地域では都市化が進み、古くからの伝承や行事が家庭や地域から消えつつある。そのため元来、行事を通して学ぶ社会の文化や生活技術の伝承の機会が失われてきた。そのことは、ふるさと意識の喪失と地域性、土着性というものを持たない浮草的文化となり、その中で育った人間は、発想の原点を持たず、地域独特の感性は培われないのである。

文化と幼児の育ち

幼児の文化	遊びの文化	生活文化	教養文化
環境(人的) 関わり 育ち	空き地・公園 (友達) 自由、解放的、自主的 遊びの創造と、改良 空想と感動体験 仲間意識	家庭・地域(家族・地域の人々) 具体的生活体験 生活技術の伝承 ふるさと意識 地域独特の感性・個性	幼稚園(教師・友達) 集団生活 主体的態度 集団の規律、約束 自己発揮 自己抑制

### ③教養文化

子どもを塾やプールなどに通わせることで知識や技能を身につけようとする今日の社会環境の中で、教養文化が幼児の生活の大きな中心となってきた。例えばかつての川での遊びや水泳とは大きく違い、プール教室などでの体験は標準化、画一的、自己抑制、集団管理が強く感性や個性は育ちにくいと言える。

## 4 幼稚園での郷土の文化継承を目指して

### (1)伝えたい心の文化

幼児の文化的な育ちに関わりの深い生活環境を幼児にふさわしいものにしていくために、幼児の生活の場である幼稚園で、郷土の文化に触れる機会を多く持つことは大切なことと考える。郷土には、ユイマール（助け合い）、肝グクル（真心）、命ド宝（命こそ宝）、など、昔から伝承されたすばらしい文化がある。子供たちの「生きる力」を育むことが求められている今日、郷土の文化に触れ合う感動体験を通して、他人への思いやりや優しさや、友達と仲良することの大切さ気づかせたい。また、身近な人の愛情に気づかせ、安心感と信頼感で、安定した園生生活を過ごさせたい。

### (2)郷土文化の特徴

沖縄県は、かつての王国の歴史が優れた文化を築き上げてきた。海をこえた交易が、文化の交流をなし個性的な文化が生まれた。また、60あまりの島ごとと集落ごとに変わる文化の多彩さ。祭りや行事、またそれを支える信仰や人々の結び付き。その場で演じられる芸能など多種多様な文化の宝庫であると同時に素材や教材の宝庫でもある。

### (3)伝承文化の意義

- ・文化を通して、世代を越えた触れ合いができる。
- ・昔の人の優しさや温もりが伝わる。
- ・昔の人の知恵や工夫に感動する。
- ・人間の生き方のモデルを学ぶ

- ・美しさや不思議さに感動し感性を豊かにする。
- ・地域に親しみを持って生活する。
- ・郷土に誇りを持つことができる
- ・郷土に愛着を持つことができる。

## 5 教材化を進める前に

### (1)行事の持つ意味

行事は本来日常生活に変化や潤いを与えながら、社会生活上必要な事に気づいたりする上で大きな意味を持っている。幼児も家庭や地域で行事に関わることで生活を楽しく張りのあるものにしていく。また、行事を通してさまざまな体験が幼児の発達を促していくものである。

### (2)郷土の行事と園生活との関わりについて

幼児の生活は、家庭、地域、幼稚園と連続して営まれるのであり、家庭や地域でのさまざまな体験を幼稚園に持ち込んできて、自分たちの生活に取り入れていくことがある。そのような意味で地域や家庭の行事で得た体験を大切にする必要がある。また、行事への関わりが少ない幼児が、幼稚園で教師や友達を通して行事に関わることも幼児の自然な生活の流れだと考える。

### (3)ことわざや民話について

幼児の言葉の育ちは身近な人に親しみをもって接し、自分の感情や意思を言葉で伝えたり身近な人の話を聞くことにより獲得される。また、認識や思考は言葉を使うことで確かなものになっていく。そのために幼稚園では、生活の中で心を動かし、表現したくなる体験を多くもつことが大切である。また、絵本や物語りに親しむことで、さまざまな言葉に接することとなり、言葉に対する感覚を培う上で大切なことである。その意味で、民話やことわざとの触れ合いは、日常の生活で味わえない感動と、言葉の獲得になるだろう。

(4)教材選択の視点

- ・郷土の優しさが伝わり価値のある内容。
- ・生活に関連した内容や言葉。
- ・直接体験や疑似体験が出来る内容。
- ・興味や発達段階に合う内容。
- ・園と家庭と生活の連続性や共通の話題がもてる内容。

(5)教材化の留意点

- ・関連のある踊りや伝承、わらべ歌をまとめスムーズに展開出来るようにする。
- ・友達の家庭環境や、生活の違いを知らせながら他の幼児との違いで、不安感や疎外感にならないようにする。

(6)親しませるための環境の工夫

- ・行事に関する食べ物をおやつに取り入れる。

- ・室内や、玄関に郷土の置物や織物を飾る。
- ・地域のお年寄りと交流する。
- ・地域の文化施設を見学する。

6 家庭との連携

幼児の生活は幼稚園、家庭、地域社会と連続的に営まれている。幼児の興味・関心の方向や必要な経験のとらえなど、個々の幼児の生活に対する理解を深めることは大切な事である。また、父母の協力によって指導と育ちがより確かなものとなる。

- (1)園便りで時節の行事を紹介する。
- (2)行事の手伝いや関わり、具体的体験の大切さを理解してもらう。
  - ・参観日、園行事、ボランティアなどで園生活の様子が見られる機会を増やす。
- (3)価値観の違いを認め、押し付けや、その他誤解を招かないように気をつける。

7 郷土の文化を通して育つ心情・意欲・態度

幼児は身近な環境からの刺激を受けとめて自ら興味を持って関わることにより、さまざまな感動と充実感を味わうことになる。幼稚園での環境は幼児の生活全体を視野に入れ、人や物が相互に関連し合い醸し出す雰囲気大切に受け止め、総合的な環境作りを考え、下記のようにまとめた。

郷土の文化への関心の育ち 《 内容 例 》	幼稚園要領との関わり 育てたい心情・意欲・態度	領域
郷土の料理や食べ物を知り、喜んで食べる。 《ゴ-ヤ-テンブラ、砂糖テンブラ》  地域の文化やくらしに触れ親しみを持つ 《公民館、公園、家庭生活、手伝い》	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事など生活に必要な習慣に気づく。</li> <li>・自分の健康について関心を持つ。</li> <li>・共同の遊具を大切にする。</li> <li>・親の愛情を知り、大切にする。</li> <li>・高齢者や地域の人々に親しみを持つ。</li> <li>・良いこと悪いことに気づき考えて行動する。</li> </ul>	健康   人間 関係



8 幼児の実態把握（アンケート調査結果）

園全体の幼児の生活環境を把握し、幼稚園での環境作りに役立てようとアンケートを実施した。その結果を下記のようにまとめた。

- (1)調査の目的：幼児の生活環境を把握し、幼稚園での環境作りや年間計画作成に役立てる。
- (2)調査対象：全園児94名 回収68名 回収率72.3%
- (3)アンケート調査目的と質問事項

目的：文化の担い手である、祖父母との関わりを調べる。

①おじいちゃんおばあちゃんとどれくらい会えますか。

おじいちゃん おばあちゃん	同居	よく会う	たまに会う	お会い出来ない	いない
	9人(13.2%)	27人(39.7)	18人(26.4)	13人(19.1)	1人
ひいおじいちゃん おばあちゃん	2人(2.9%)	7人(10.2)	14人(20.5)	26人(38.2)	19人(13.2)

目的：行事との関わりを実態把握し、教材化のための選択に役立てる。

②園児は、どんな行事に参加していますか。（参加人数の多い順に \*複数回答）

<b>家庭の行事</b> 新正月(64人) 清明祭(48) ムーチー(35人) 旧正月(31人) 彼岸(31) 十六日(22) 年の夜(21) 八月十五夜(16) たなぼた(13) 屋敷の拜ミ(8) 二十日正月(8) 火の神迎(4) 五月ウマチー(3) 願解き(3) 八月遊び(0) (お祝い)トシビー(22人) トーカチ(6) カジマヤー(4)	<b>地域社会の行事</b> てだこ祭り(24人) エイサー(17人) ハーリー(14人) 首里城祭(7人) 綱引き(4人) 空手見学(2人) 獅子舞(2人) 琉球舞踊見学(1人) 棒踊 0 沖縄芝居 0
--	---

目的：郷土の行事を機会に、幼児はどのように文化に関わっているかを調べる。

③行事に参加するとき特にやっていることがありますか。（複数回答）

行事のなりたちを 聞かせている	行事の手伝い をさせる	あいさつや マナーを教える	特にしてない	無答	参加しない
10人(14.7%)	16人(23.5)	28人(41.1)	19人(27.9%)	4人	1人

目的：幼児と民話や伝承との関わりを把握し、幼稚園での環境を考える。

④民話や、わらべ歌などについてお答え下さい。

民話を	語りで	絵本を読んで	わらべ歌を	歌で	テープなど
よく聞かせる	3人(4.4)	1人	よく聞かせる	0	0
時々聞かせる	37人(54.4)	25人(36.7%)	時々聞かせる	20人(29.4)	5人(7.3)
聞かせたことがない	26人(38.2)	42人(62.7)	聞かせた事はない	44人(75.8)	61人(89.7)
誰が聞かせていたか(父4人, 母20, 祖父0, 祖母7, 外1)			誰が聞かせていたか(父4人, 母8, 祖父3, 祖母10, 外4)		

目的：父母は、どのように民話や伝承に関わっていたか。

⑤(ご父母の方へ)小さいときに民話や伝説など聞いたことがありますか。

よく聞いた	時々聞いた	聞いたことがない	無答
3人	37人	26人	2人



小さいときにどんな話を聞きましたか。

キジムナー 5人, 戦争の話 3人, ムーチー 2人, 羽衣伝説 2人, 逆立ち幽霊 2人, 運たまぎるう  
耳ちり坊主, 伊江島ハンドグラー, ウズラの親子, 通り池の伝説, てだこの由来,  
久高島に神が降りた話, 3月3日の海の話, あの世のお金の話, 行事の事, 神事, 昔話, 民話

目的：幼児の物的環境を調べ、幼稚園での環境作りに役立てる。

⑥園児の身近にある沖縄らしい物、見たことがある物など。(多い順に \*複数回答)

家庭や祖父母宅で

仏壇61人, シーサー53人, 三線43人, 琉球人形24人  
農具カマ22人, 太鼓18人, 焼き物16人, 漆器15人  
鍋11人, 農具クワ10人, 織物7人, カーミ7人  
その他14人 (カンカラ三線 1人)

近所や地域で

シーサー53人, お墓37人, 石ガン当34人  
赤瓦の屋根29人, サトウキビ畑29人  
お宮13人, かやの家9人, ヒンブン3人

目的：父母の郷土の言葉との関わりを調べ、幼児の言葉環境を把握する。

⑦(父母へ) 沖縄の方言が分かりますか。

⑧方言を伝える価値はあると思いますか。

話せる	話せぬが聞ける	分からない	無答
15人(22.0%)	37人(54.4%)	15人(22.0%)	1人

価値がある	どちらとも言えない	特にない	無答
49人(72.0%)	14人(20.5%)	2人(2.9%)	3人

目的：地域の伝統芸能だが、馴染みが薄いと思う。幼稚園での取り組みは可能か考える。

⑨宮城地域に伝わる伝統芸能「アギバーリー」を知っていますか。

知っている	聞いたことがある	知らない
0	7人(10.2%)	61人(89.7%)

(4)アンケート結果からの考察

- ・核家族化が進み、身近な文化の担い手である祖父母との関わりが減少してきた。
- ・家庭で年中行事に関わる機会が少ない。また、行事の伝承や民話、わらべ歌との関わりも少ない。

(5)アンケート結果からの課題

- ・年長者との触れ合いの場や、交流がもてるような環境作り。
- ・自然な生活の流れの中で、総合的に文化に触れるための環境作り。

## VI 教材の工夫

### 1 民話「十二支の由来」に親しむための教材の工夫

#### (1)設定の理由

新年を向かえ、幼児の生活環境でも干支に触れる機会が増える。幼児が干支に興味、関心を持つことで十二支が社会の文化と関わっていることに気づくだろう。また、幼児は12種の動物が登場するこの民話に興味・関心を持って聞かだろろうと考えた。

#### (2)目的：「十二支の由来」への興味・関心を持たせるための教材。

遊びに発展させ、十二支について意識が継続させる。

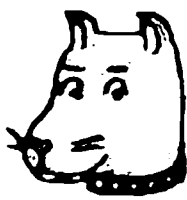
#### (3)教材の教育効果

- ・言葉遊び…十二支を覚えることで、満足感を味わう。〔言葉の獲得〕
- ・干支に関心をもつ…身近な人の干支に関心を持ち、関わりや会話が広がる。〔人間関係〕
- ・カレンダーに興味をもつ。月日、曜日、数に関心を持ち、生活に取り入れるようになる。

#### (4)教材の工夫と幼児の様子

〔環境〕

◎教材の良さ ◇役割	教材の工夫 ☆ねらい	幼児の関わり
<p>◎楽しい民話</p> <p>◇十二支を知りきっかけになる。</p> <p>◇カレンダーに興味・関心を持たせる機会になる。</p>	<p>語り聞かせ 絵本の読み聞かせ</p> <p>十二支の動物の絵 ↓ 十二支動物カード</p> <p>☆十二支の順番に気づく。 ☆遊びながら順番を認識する。</p> <p>☆ 民話を聞いた後も話の内容や十二支についての意識が継続し、深く関わる。</p>	<p>・民話を楽しみ、興味関心をもって喜んで聞く。</p> <p>・十二支の絵を見ながら自分の好きな動物について意見を言い合う。</p> <p>・友達同士で声をそろえて動物名を言う。</p> <p>・カードを並べてあそぶ。</p>



## 2 着物に親しませるための教材の工夫

### (1)教材設定の理由

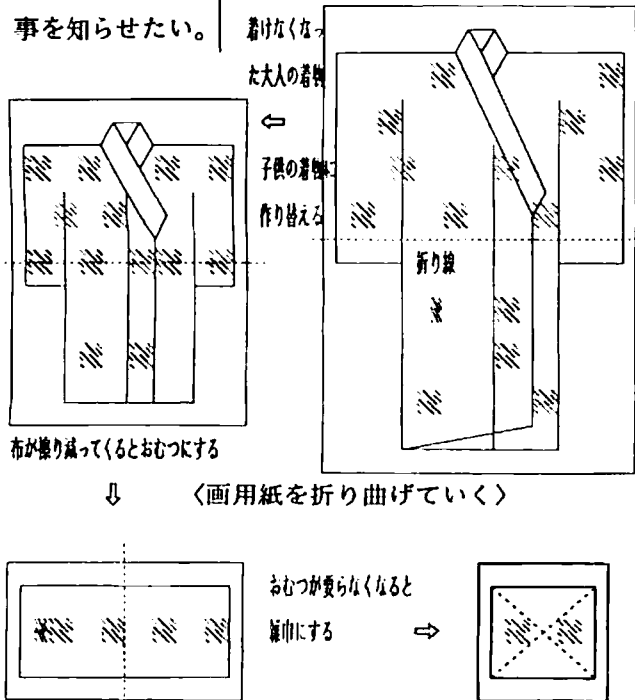
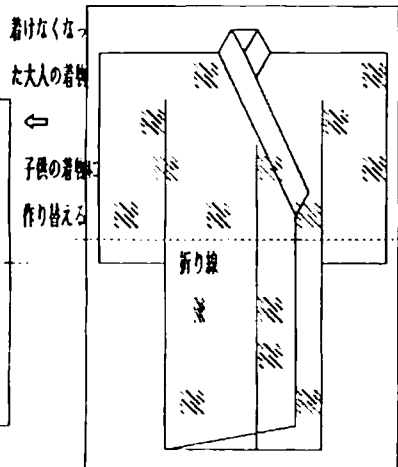

着物は日本の民族衣装である。このごろは着物を着る機会や、身近に着物を着た人を見かける事も少なくなつた。幼稚園ではハッピを着てエイサーを踊る経験をするが、特に着物を教材に取り入れたことが少ない。また、社会的にも環境問題を考える時期であり、着物教材を通して昔の人の生活の様子を知らせ省エネや、リサイクルについても気づかせたい。

(2)目標：昔の人の服装や暮らし、生活の知恵を知らせる。

### (3)着物教材の教育効果

- ・左右を意識するようになる。
- ・紐結びの経験ができ手先の訓練ができる。
- ・着物を着ることで変身の楽しみ、イメージが広がる。


### (4)着物教材と幼児の関わり

◎教材の良さ ○教師の思い	教材の工夫 ☆ねらい	幼児の様子・声〔考察〕	生活との関わり
<p>◎民族衣装である</p> <p>◎紐結びの体験ができる。</p> <p>◎左右を意識することができる。</p> <p>○昔の人の服装を知らせる。</p> <p>○物を大切に、工夫して生活した事を知らせたい。</p> 	<p>・着物、草履を着る(教師)</p> <p>・着物リサイクルの絵</p> <p>☆昔の人の服装を知る。</p> <p>☆昔の人のリサイクルや物を大切に生活した事を知る。</p> 	<p>「(着物は)テレビで見たことがあるよ」〔直に見ことは少ないようで興味を示している〕</p> <p>・リサイクルの絵を見る。</p> <p>・どの様にリサイクルするか自分の考えや意見を言う。</p> <p>・「繰り返し、繰り返し、使うんでしょう。」〔ねらいが伝わったと思う〕</p> 	<p>・発表会でハッピを着てエイサーを踊る。</p> <p>・環境の工夫</p> <p>・着物を身近に置き、触れたり着</p> <p>・自分で考えたリサイクルの絵を書く。</p>

### 3 行事「ムーチャー」に興味を持つための教材の工夫

ねらい「ムーチャー」の由来を知り、心身の健康について考えるようになる。

#### 10日の活動

<p>幼 児 の 実 態</p>	<p>25日が、ムーチャーであったことから、家庭や祖父母宅でムーチャーを作ったと答えた幼児が、約3分の1程いた。また、保育園などで経験した子も多い。一方で他府県から来た子も含め初めての子もいる。ほとんどの幼児が食べたことがあると答える。なぜムーチャーを作るのかの質問には、「お正月だから」「食べたいから」「（ムーチャーを）作る日だから」と答えるなど全員が理由を知らなかった。</p>		
<p>◎教材のよさ ◎教師の思い</p> <p>◎いろいろな活動が経験できる。 葉、包む、結ぶ、昔の道具、作る、炊く、味わう</p> <p>◎定着している行事である。</p> <p>◎なぜ作るのかは浸透してない。</p> <p>◎郷土独特の鬼退治の行事を通して、心身の健康を考える</p>	<p>生活との関り</p> <p>ムーチャーの行事の近くに行く</p> <p>家事などの手伝いをする。</p>	<p>教材の工夫・ねらい</p> <p>教師エプロンを着ける エプロン(紅型模様) ・ムーチャー作りに期待と意欲を持つ</p> <p>鬼の面 ・由来の印象が強く残る。</p> <p>語り ・ムーチャーの由来を聞く。</p> <p>ムーチャーの歌と挿絵 ・ムーチャー作りの挿絵を書く事で幼児が活動の予想ができる。 ・ムーチャー作りに期待を持つ。</p>	<p>幼児の様子・声 (考察)</p> <p>ムーチャーについての話し合いで「ムーチャーは分かるけど、なぜ作るのかは知らない」と答える。 〔問題意識→知りたい意欲〕 (教師が振り向くと鬼の顔) 「鬼だ! 鬼だ! 鬼は外」豆まきの真似をする。 ムーチャーの由来を聞く。 歌詞の説明を聞く。 「ガジュマルってあれ(外を指さして)でしょう。」 〔木が生活の一部になっている〕</p> <p>イッペーチュウバーが、イッペーニフェーデービルと同じだと納得する〔経験した活動内容が生きている〕</p> <p>・絵に興味をもって見る。 「大きな鍋だね。」 「これはムーチャーの葉っぱだ。」</p>
			

〔考察〕・鬼の面を使うことでムーチャーの由来が強く印象づけられたようで、翌日も鬼の話が話題になった。

・ムーチャーの歌の挿絵に関心を示し、また喜んで歌った。挿絵の中のシメ鍋と同じ本物の鍋を見つけて「同じだ」と友達や教師につたえた。

#### 4 検証保育

(1)主題 「クスケーの由来」を伝えるための教材の工夫

(2)目標 「クスケー」の言葉とその由来を知らせ、その言葉に興味関心を持たせる。

※「クスケー」とは、特に乳幼児のクシャミの後に父母や大人がかけてやるまじないの言葉。

(3)設定理由 : 1~2月にかけて風邪がはやる。幼稚園でもせきやクシャミをする子が増えてくる。郷土には、クシャミをしたら「クスケー」と応える習慣がある。この時期に「クスケー」の由来を位置付け、郷土の温かさに触れさせたい。

(4)教材化の教育効果 : 「クスケー」の由来を教材化することで得られる教育効果を次のように考えた。

※ ◎教師の主なねらい ○発展

健康	人間関係	表現	言葉	環境
◎命の大切さを知らせる。 ○風邪の予防について話し合い健康健康について考える。	◎父母の愛情に気づく。 ◎おばあちゃんの知恵や愛情に気づく。 ◎お年寄りを大切に、身近な人に関心を持つ。	◎具体的な昔の道具に触れ、イメージを豊かにする。	◎民話を楽しみ、関心を持って静かに聞く。 ◎友達と感動を共有し合う。 ◎身近な人に感動を伝える。	○クシャミをする子が増えたことなど、季節の変化に気づかせる。 ○教師がクスケーを意識を持って使い、見本を示す。 ○風邪の流行のニュースで社会の様子を知らせる。

#### (5)教材化の過程と幼児の変化

☆教材の条件	☆留意点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児が興味や関心を持って関わる教材。</li> <li>・伝承が解りやすく伝わる教材。</li> <li>・みんなで感動を共有し楽しめる教材。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“まじない”の言葉であり、優しさといたわりの言葉であることが伝わること。</li> <li>・風邪の菌(ばい菌マン)に言う言葉であり、クシャミをした人に言うなど誤解の無いようにする。</li> </ul>

↓

↓

◎幼児の好きな紙芝居
工夫と留意点 <ul style="list-style-type: none"> <li>・温かさが伝わる絵にする。</li> <li>・絵の中に昔の風景や道具、行事など郷土らしさを表した。</li> <li>・伝承では男の子が生まれたとあるが、見た子が主人公になれるように、男女どちらでもとれるようにした。</li> </ul>


◎みんなで楽しめるゲーム
工夫と留意点 <ul style="list-style-type: none"> <li>・クスケーを言う対象が幽霊だと分かるようにした。</li> <li>・幼児の意見を取り入れながらルールやゲーム再構成することで、創造する楽しさも知らせていく。</li> </ul>

↓

↓

幼児の変化
<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園での体験を家庭に持ち帰り、父母や身近な人に伝えたり、クスケーと言ったりする。</li> <li>・クシャミをした友達に、クスケーと声をかけるようになる。</li> </ul>

(6)公開保育指導案

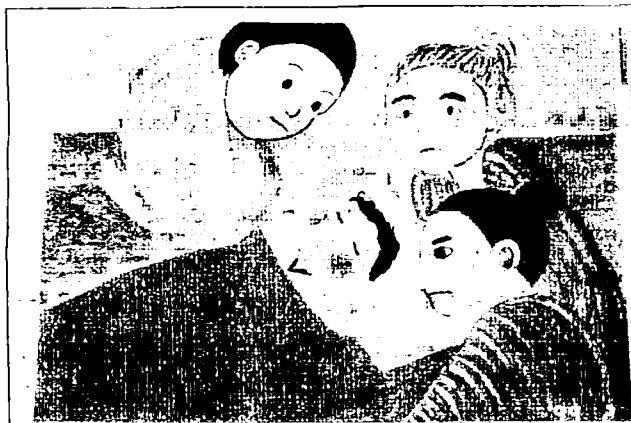
日時	平成10年1月14日(木)9:15~9:50	幼 児 の 姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・祖父母参観日で「チュウヤ イPPERニフエーデービル」とあいさつをした。言葉のおもしろさを楽しんだり、覚えてたの言葉を口ずさんだり、と興味を持ち取り組んだ。</li> <li>・方言はおじいちゃん、おばあちゃんなど年長者の言葉だと受け止めているようで、よく知らないが、親しみはあるようだ。</li> <li>・クスケーの言葉が、クシャミと関係があることを知っている幼児が一人いた。</li> </ul>
対象児	にじ組 31名(男児14、女児17)		
場所	にじ組クラス		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クスケーの由来について知る。</li> <li>・言葉のおもしろさを知りクスケーの言葉に親しむ。</li> </ul>		
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙芝居を見る。</li> <li>・ゲームを楽しむ。</li> </ul>		
時間	幼児の文化との関わりと活動の様子 (興味、関心、意欲のとらえ) 環境		教師の言葉かけと、援助
9:15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集まる</li> <li>クスケーとは何かについて話し合う。</li> <li>・意見を言う。</li> <li>・友達の話聞く</li> <li>クスケーの言葉の意味を皆で解いていく。</li> <li>「くそ食えって変だおかしい。」</li> <li>「なぜかな?意欲・関心」</li> <li>「昔に行くって?」</li> <li>「どうやって?」</li> <li>・目を閉じて「・・・3,2,1,0」と数える。</li> <li>・着物、草履姿の教師を見る。</li> <li>「また、着物だ」「親しみを感じる」</li> <li>紙芝居「クスケーの由来」を見る。</li> <li>・発見や驚きを表現する。</li> <li>「クスケー」を皆で言う。</li> </ul> <p>紙芝居を終わる(教師、洋服になる)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・風邪を引いている子は手を上げる。</li> <li>・皆で「クスケー」を言う。</li> </ul> <p>「♪なぁ～にが、ゲーム」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームの説明を聞く</li> </ul> <p>クスケーのゲームを楽しむ。</p> <p>(1)教師がお化け 教師「うらめしや」 個人「ハクション」 全体「クスケー」</p> <p>(2)幼児がお化け</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲーム終了</li> <li>・集まる。</li> <li>歌「赤田首里御殿」を歌う。</li> <li>・友達の話聞く。</li> <li>・感じたことを話す</li> </ul>	 <p>「クスケーって知ってる?」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児一人ひとりの、多様な意見や考えを受け止め話し合いに、意欲を持たせる。</li> <li>・幼児の意見から、クスケーが、クシャミと関係あることを引き出す。</li> <li>「クスケーってどんな意味なのかな?」</li> <li>・「クス」「ケー」に分けて、幼児に答えを出させながら皆で解説していく。</li> <li>「くそ、食えって変だねー。」</li> <li>「なぜ、くそ食えと言う様になったのかな?」</li> <li>「昔に行ったら分かると思うよ。」「これから、タイムマシンに乗って昔の世界に行きます。みんな目をつぶって」</li> <li>(雰囲気を変えるために着物を着る)</li> <li>「ここは昔の幼稚園ですよ。」</li> <li>・意欲や期待を持たせながら紙芝居を始める。</li> <li>・クスケーの場面では、皆一緒に言えるに声をかけクシャミとクスケーのタイミングを知らせる。</li> </ul> <p>・紙芝居を終わる。(着物を脱ぐ)</p> <p>「風邪を引いている子は?」と尋ねて友達の状態に気づかせる。咳やクシャミをした子に皆がクスケーと応えられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなで言ったので風邪が早く治ることと皆の優しい気持ちを喜ぶ。</li> </ul> <p>「♪ゲーム、ゲーム」の掛け声と共に旗を出し、次の活動へ期待を持たせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームの説明をする。</li> <li>・教師がお化けになって一人一人にクシャミをさせ、他の幼児はクスケーと答えられるようにする</li> </ul> <p>「オバケになりたい子は?」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児に変わり、一緒にゲームを楽しむ。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲーム終了を知らせる。</li> <li>・歌を歌いながら、楽しい雰囲気を継続させる。</li> <li>「今日は昔の世界へ行って、紙芝居を見たり、ゲームをしたね。どうだったか。」</li> <li>・一人ひとりの話を受けと止める。</li> </ul>	
9:50			
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙芝居に、興味・関心を持って聞いていたか。</li> <li>・由来について幼児なりに理解できたか。</li> <li>・「ハクション」「クスケー」のタイミングが分かり、ゲームを楽しめたか。</li> </ul>		

(7) 伝承「クスケーの由来」紙芝居

紙芝居	場面の説明 工夫点	幼児の反応 考察
	<p>導入の場面</p> <p>・のどかさを出しながら昔の家と屋敷の様子が分かるようにした。</p>	<p>「わーすごい。」 (風景に驚いたようだ)</p> <p>「昔の家はドアがなかったんだよ」</p>
	<p>「仲のいい夫婦」 「子供がほしい」事を強調する。</p> <p>・昔の畑仕事の様子、頭にものを乗せて運んだ事が分かるようにした。</p>	<p>「あっ、裸足だ。」と幼児の一人が言うと、ほかの子もあいづちを打つ。</p>
	<p>「待望の赤ちゃんが生まれた」</p> <p>・赤ちゃんを大切に包み込む父母の愛情が伝わるようにした。</p>	<p>にここを見る</p>
	<p>「まん産」祝いの買い物と三線を弾く人を探しに那覇の町に行く父。</p> <p>・昔の荷物の運び方がわかるようにした。</p>	<p>「草履はいてるよ。」 [気づき] 「なんで？」</p>

	<p>お祝いの場面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昔の家の中の様子が分かるようにした。</li> <li>・三線の音をイメージできるように口まねする。</li> </ul>	<p>「(人が)少ししかいないね。」</p> <p>「お祝いだったらデージ いっぱいいるような。」と友達に話す。</p>
	<p>隣のおばあちゃんに話を聞き驚いている父</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・方言を使う</li> <li>・お年寄りの知恵や優しさが分かるようにする。</li> <li>・おばあちゃんの手甲に「ハジチ」を書いた。</li> </ul>	<p>「なんて言っているか分からない。」</p> <p>・おばあちゃんが言った言葉の意味をもう一度聞くきく。</p>
	<p>場面(半) 節穴から覗いて驚いている父</p> <p>場面(半) 節穴の向こうに三線を弾くガイコツ</p>	<p>場面に集中する</p> <p>驚きの声や表情を表す。</p>
	<p>場面(半) お化けをこっそり追いかける父</p> <p>場面(半) 墓のまえので立ち止まるお化け</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土の墓の様子が分かる</li> </ul>	<p>「あの人は、おばけだったわけ？」</p> <p>友達同士顔を見合わす。</p>





赤ちゃんを見守る優しい  
父母と、隣のおばあちゃん。

一緒に見つめる。

・3人の愛情が伝わる  
ようにする。



場面(半) クシャミが出そ  
うな赤ちゃん

「クシャミしないよ。」  
「するよ。」  
口々に言う

場面(半) 大きなクシャミ  
をした赤ちゃん  
・みんなで「クスケー」を言  
うようにする。

みんなで、クスケーを  
言う。



すごすご逃げ帰るお化け

ホットした様子

・みんなの優しい気持ち  
やいたわりの心が、こわ  
いお化けをやっつけた  
ことに気づかせる。

「あ、(こんどは) 戸があ  
る。」



・大きくなった赤ちゃん  
を表した。

「大きくなってないよ  
まだあかちゃんよ。」

・1歳の誕生日の様子  
赤飯, そろばん, 本  
お金, 筆を並べて  
選ばせ, 将来を占う  
習慣が分かる。

## (8)公開保育後の結果と考察

- ・導入に教師が着物や草履を身に着けて登場し、テーブルにシーサーの敷物を掛けることによって、タイムスリップして昔の世界へ行った雰囲気を出すことができた。そのために、幼児がすんなり紙芝居の世界へ入り込むことができと思う。
- ・紙芝居の場面に出てくる昔の道具や服装、行事などにも興味を示し「昔の家は戸がない」「裸足だよー」など一場面一場面に反応を示し興味関心を持って見ていたようだ。紙芝居にしたことでクスケーの由来が分かりやすく伝えることができ、幼児に適した教材と言える。
- ・ゲームの際、仲良しの友達に対して一生懸命「クスケー」と言って上げる場面や、友達のクシャミに喜んで「クスケー」と言ってあげたりする場面がみられた。ゲーム遊びで「クスケー」の言葉に対してより親しみを感じたと思う。



## (9)その後の幼児の様子

- ・「お父さんがクシャミをしたからクスケーって言ったよ。そしたらお父さんが、それ何？って言ったから教えたよ」との声や、「妹がクシャミをしたクスケーって言ったよ」との幼児の声が2~3日後にも聞かれた。家庭でも話題に上ったことなどから由来の印象が強く残ったように思う。
- ・クラスの中で友達がクシャミをすると2~3人の子が、口々にクスケーと応えていた。

## クスケーの由来

中頭北中城村

あるところに、若い夫婦が住んでおった。二人はいつも、「こどもがほしい、こどもがほしい。」と言っていた。するとある日、この夫婦に男の子が産まれた。とてもかわいい元気な赤ちゃんだった。長い間待ち望んで生まれた子なので、子供が産まれて七日目に、親戚の人や隣近所の人を沢山呼んでお祝いをすることにした。

その日になると、その家の夫は、祝いを賑やかにする三線を引ける人を頼みに那覇の町へ行った。歩いていると、道で出会ったきれいな女の人が、「三線なら私が上手です。」

と言うので、その女の人を連れて家に帰った。

「さあさあ、今日は男の子の誕生祝いだ。みんなで楽しくやろう。」と言うと、那覇から連れて来た女の人が、三線弾いて上手に歌ったので、大勢のお客さんは楽しく酒を飲み、御馳走を食べた。

やがて、みんながカチャーシーを踊って家中が賑やかになると、入り口のところから隣の家のお婆あさんが、こっそりその家の夫を呼んだ。

「あの中にいる女の方は普通の人ではないよ。節穴から見ごらん。」

夫が節穴から覗いてみると、恐ろしい骸骨が歌を歌っていた。夫はすぐにその女の人を追出そうと思ったが、せっかくのお祝いの座が壊れてしまっはいけないと、そのまま待つことにした。

夜も遅くなり、一人、また一人とみんなが帰って行くと、女の方も、

「今日はどうもありがとうございます。楽しかったです。」とお礼を言って帰って行った。

夫が、恐る恐る女の人の後をついて行くと、墓が沢山あるところで女の人のお姿はスーッと消えてしまった。不思議に思い、しばらく立ち止まっていると墓の中から話し声が聞こえて来た。

「あんたは、こんなに遅い時間までどこに行っていたか。返事によっては後生に入れてやらないよ。」

「はい、実は道で見知らぬ男の人に声をかけられ、その家の子供の誕生祝いにやっていました。」

「そんなら、その赤ちゃんの魂を取ってこい。」

「どんなにして、赤ちゃんの魂を取ったらいいの  
よか。」

「赤ちゃんにクシャミをさせて、そのときに魂を取  
ってしまえばいいさ。」と言った。

墓の中での話を外で立ち聞きした夫は急いで家に帰  
り、隣のお婆さんに相談した。

「ではこうなさい。赤ちゃんがクシャミをしたら  
すぐ糞食えと言ったら、魂は取られないよ。」

夫は家に帰ると、家中の人に、

「赤ちゃんがクシャミをしたときに、魂を取られる  
から糞食えといってよ。」

お婆さんから教えられたことを伝えた。

そのとき、幽霊が赤ちゃんの魂を取ろうとして、  
赤ちゃんにクシャミをさせた。家中の人が、

「糞食え、糞食え。」

と言ったので、幽霊も赤ちゃんの魂を取れずにし  
ぶしぶ帰って行ったそうだ。

それから、赤ちゃんがクシャミをすると糞食えと  
言うようになった。

〔解説〕

『徒然草』の中に尼さんがくしゃみをしたとき、まじないの言葉として「糞食め(くそほめ)」  
と言ったという話が載っている。即ち、本土でも中世までは、くしゃみをしたときは、糞食えと  
同じ意味のまじないの言葉を言っていたのである。ちなみに、昔はくしゃみを鼻ひると言い、現  
在の「くしゃみ」という言葉は、「糞食め」を語源とするという説がある。



ぶくぶく茶の宮城久子先生

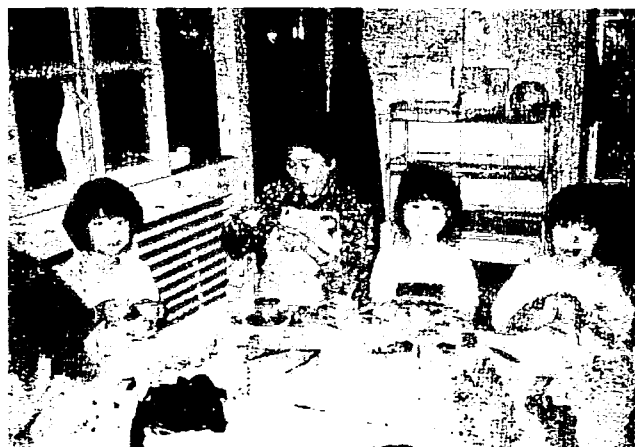
子供たちは紅型衣装に感動しました。



ぶくぶく茶を飲む子供たち日ごろ味わえない  
厳かな雰囲気を感じました。



ムーチー早く出来ないかな。





ヒデおばあちゃんと一緒に作った  
ムーチーおいしいね。

郷土の文化を取り入れるための年間計画

42

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	
環境・育ち								
園行事 (郷土の行事)		・入園式 ・家庭訪問 (・シーミー) (・浜下り)	・春の遠足 ・母の日 ・交通安全指導 (・ハーリー) ユッカヌヒー)	・親子運動会 ・父の日 (慰霊の日)	・園外保育 ・セミ取り ・地域清掃	(お盆)	・祖父母参観日  (・彼岸)	
幼児の心の育ち		・海, 山ってスゴイ ネ, 楽しいしね。	・お父さん お母さん 大好き。	・おじいちゃんお ばあちゃんと遊ん で楽しいな。 ・戦争っていやだ 怖いな。	・幼稚園のまわり もきれいにしよう。		・おじいちゃん おばあちゃん すごいな。	
幼稚園 で の 環 境 の 工 夫	室内	貝殻, 写真など 海の雰囲気	プレゼント作り	プレゼント作り			・昔の遊び おてだま けん玉 まりつき	
	園庭		ゴージャス	(ゴージャス) ガジュマルの木(木登り) 木の葉で作ったセ ミ取り	へちま	→	竹馬 縄跳び	
	園外保育 地域の人		交通指導 お巡りさん		通園路の清掃 シーサー 石がん当	地域の祭り 地域のエイサー		
	絵本, 紙芝居	「かりゆしの海」		戦争の絵本			「カチャーシーを おどろうよ」	
	わらべ歌 遊び 楽器		「イッタアー アンマー」	「デーヌ グソク」 「コジャー ウマジャー」	「ゆいゆい」 「お屋根のシーサー」		・カチャーシー ・三線 ・太鼓	・カネ ・サンバ
	ことわざ 郷土の言葉 (方言)	ゆがふたぼーり	スー(父) アンマー(母)  ワラビ(子供) ニフェーデビル	ぬちど宝 まぶやーまぶやー  きじむなー クッチーサビラ	ゆいまーる			今日は, イッペー ニフェーデビル

-18-

月		10月	11月	12月	1月	2月	3月
環境・育ち							
園行事 (郷土の行事)		・芋掘り遠足 (那覇大綱引き)	・運動会	・生活発表会	・ムーチャー	・郷土の歌音楽会 ・カレーパーティ	・ぶくぶく茶会 ・修了式
幼児の心の育ち		・芋掘り頑張るぞ。 自分でやると楽しいな。	・おじいちゃんおばあちゃんが見に来るよ。運動会頑張るぞ。	・エイサーはカッコいい、一生懸命踊るよ。	・ムーチャーおいしいな。心の中の悪い鬼もやっつけて強い子になろう。	・沖縄の音楽は楽しいな。	・静かな心って大切だな。
幼稚園での環境の工夫	室内	さつまいも 幼虫→蝶		幼児用着物 ハッピー アダンの草履	ムーチャー作り		茶道具(漆器) 紅型衣装 掛け軸
	園庭	焼き芋パーティー ごぼう、大根 ニンジン ジャガイモ			シンメー鍋 サンニンの葉	→	
	園外保育 地域の人	芋畑				・一年生との交流 (伝承遊びをしよう)	・ぶくぶくお茶の先生 ・5年生との交流
	絵本 紙芝居	「さつまいもの本」 「かばまだら」			「おにムーチャー」 「クスケーの由来」		「ぶくぶく茶について」
	わらべ歌 踊り 伝承遊び 楽器	てんさぐの花	ちんぬくジュウ	エイサー太鼓 パーランクー (踊り) ありがとう 赤田首里御殿	ムーチャーの歌	三線 琴 くうちょう サンバ	
	郷土の言葉 (方言)	・イモてんぶらー ・ぬちぐすいやっさ (命の源)	スー(父) アンマー(母) クンマー(祖父) ハーマー(祖母)	クワッチーサビラ (いただきます)	ネ、ウシ、トラ… (十二支) クスケー		

## VI 研究の成果と課題

### I 研究の成果

- (1)郷土の文化を計画的に取り入れるための、年間計画を作成することができた。
- (2)郷土の文化を効果的に伝えるための教材について考え作成した。
  - ・紙芝居は、幼児の興味関心を引き継承が園全体に伝わり、生活に生かしていた。
  - ・十二支の動物カードは民話への関心を高め、意識や興味を持続して遊んだ。
  - ・鬼の面はムーチーの伝承を強く印象づけた。
  - ・挿絵は歌への興味関心の外、幼児が活動の予想がつき期待と意欲が高まった。
- (3)郷土の文化を教材化し、計画的に指導することは有効な方法と言える。
- (4)幼児期の郷土の文化継承は自然な生活の流れのなかで具体的な生活体験を通して、知らず知らずに身につけていくことが確認できた。
- (5)幼児の身近に着物やシーサーを置いたり、園庭に郷土の野菜を植えるなど、園全体が醸し出す郷土らしい雰囲気の中で、総合的に指導して行くことが望ましい。

### (参考文献)

文部省	幼稚園教育指導書増補版	フレーベル館	1989年
岸井勇雄編	環境	チャイルド本社	1990年
比嘉政夫著	沖縄の祭りと行事	沖縄文化社	1993年
札幌市学校教育研究開発グループ(ヘルプの会)編	子供を前・キーワード 感性ってな～に!	教育新聞社	1997年
中島美恵子著	地域に学ぶ環境教育	教育版社	1996年

### 2 今後の課題

- (1)家庭や地域の人々の理解と協力を得るための連携の工夫。
- (2)小学校との連携の取り方。

おわりに

幼稚園での郷土の文化継承について考えながら研究を進めてきましたが、どう進めればいいのか分からず迷い、回り道をた感じがします。そして、論文をまとめる事の大変を実感した6ヶ月間でした。

まだ未熟な研究ですが、ここで学んだ経験をこれの保育実践に生かして行きたいと思います。

研究期間中、優しくていねいにご指導くださいました比嘉美也子指導主事、宮城久子指導係主査、研究所に快く送り出してくださいました高原栄園長生始め、副園長の稲福英子先生、金城順子先生、下地章子先生、古波蔵美和先生、また、クラスを引き継いでくださいました崎浜一美先生にも心から感謝申し上げます。

そして、いつも温かく見守ってくださいました研究所の新城英将所長、池田博暁研究係長、當間正和指導主事他、緒先生方、また、励まし合い頑張った研究員の皆様方、深く感謝申し上げます。ありがとうございました。